

1.1.2.6-04

「に」と「と」の使い分け

1.1.2.6-04_「に」と「と」の使い分け_ナレッジと応用例

👉 「に」と「と」は、どちらも「転化の結果を示す」用法で、根本的な違いは以下の通りです。

(1)この「に」は「ある状態・資格などを表す」のに使います。

例:「大臣になる」

(2)この「と」は「次に来る動詞がさす動作・作用の状態や、内容・名称を示す」のに使います。

「総理大臣となる」

(3)どちらも転化の結果を表しますが、その転化が自然に受取られるような場合には「に」を使う傾向があります。

「総理大臣となる」

(4)つまり、「転化」「変化」が論理的、理屈に叶う、当然といった自然な流れで起きた結果であれば、「に」の方が適切となります。

「雨がいつしか雪になった」
「雨がいつしか雪となった」

- ➡
- ・上の「に」の方は、恐らく寒い状況で、雨が雪に変わるのも自然のなりゆきだと、話し手が感じているのが伝わります。
 - ・下の「と」の方は、話し手がまさか雪になるとは思わなかったという、意外性、予期せぬ結果、というニュアンスが伝わって 2 きます。

1.1.2.6-04_「に」と「と」の使い分け_ナレッジと応用例

(5)ただ、「に」「と」どちらも交換可能なことが多いので、意味的には、上記のような若干のニュアンスの違いがあるだけです。また、語感・語法によって「に」「と」と使い分けることもあります。

(1)形容動詞の場合:

「静かになる」(O)
「静かとなる」(X)

(2)時や場所の帰着点を示す場合:

「帰宅は夜になる」(O)
「帰宅は夜となる」(X)

(3)引用的に使う場合:

(ホテルなどで)
「朝食は10時まで、になっています」(△)
「朝食は10時まで、となっています」(O)

(4)決定的内容の場合:

「判定の結果、今の勝負は引き分けになりました」(X)
「判定の結果、今の勝負は引き分けとなりました」(O)

1.1.2.6-04_「に」と「と」の使い分け_ナレッジと応用例

👉 「に」「と」はニュアンス的には少し違いがあります。

a.「雨が降れば川になる」

⇒(a.)は平板で当然の帰結としての言い方の場合は「に」

b.「蛇行を繰り返し小川や多くの支流を集めて大河となる」

⇒(b.)のように紆余曲折を経る場合は「と」です。

c.「すったもんだの末、結局彼が村長**と**なった。」
「すんなりと彼が村長**に**なった」

⇒(b.)のように紆余曲折を経る場合は「と」です。

⇒文法的には、「に」を使用した場合は○から△への変化を表し、
「と」を使用した場合は○が変化せずに加えて△になる、

会社の報告であれば:

d.「計算の結果予算は○○円になりました。」

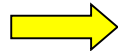
e.「いろいろ審議を重ねて検討した結果○○円となりました。」

1.1.2.6-04_「に」と「と」の使い分け_ナレッジと応用例

👉 伝えたい内容によっては意味の違う文章になってしまうんです。

<A>

社長に会いました。
社長と会いました。



<A>

「に」は、相手と対等ではない場合や自分から、相手にとった行動。

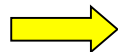
「と」は、相手と対等の場合。

社長が自分より目上の立場で自分から会いに行った場合は社長に会いました。となり

自分は社長と同じ立場もしくは会長など、それより上の立場にある場合は社長と会いました。

となります。

晴れになりました。
晴れとなりました。



「に」は、自然にそうなった場合。

「と」は、色々あったけど結果そうなった時など意外性のある場合。

よって、

出かける日に晴れたという場合は自然の流れなので晴れになりました。となり

前日まで、どしゃぶりだったのに当日、晴れた場合は晴れとなりました。